

職員が考える  
協会の  
これから

創立70年を迎えた協会の強みとは、  
直面する課題とは…  
“協会のこれから”を担う職員が  
今後の展望を語ります。



## 70年の信頼を守るために

今回、執筆依頼をいただいたテーマについて、自分が今後の展望を語っていいのか、正直なところ少し戸惑いもありました。しかし、この機会に一職員として協会の未来を考え、自分が感じることをお伝えできればと思います。

協会は今年の1月24日で創立70年を迎えました。70年…私には想像しがたいほどの年月で、過去の写真を見るとまるで歴史の教科書のように、協会がどれだけの歴史を歩んできたのかが伝わってきます。寄生虫事業から始まり、時代の変化に合わせて協会も変化・発展を重ねてきました。現在では、県民の『生涯の健康パートナー』として、70年の歴史と信頼性を持つ健診機関であることが協会の強みだと感じています。

しかし今、協会にはいくつかの大きな課題があります。その一つが人手不足とデジタル化の遅れです。健診業界全体ではまだデジタル化が進んでいないと感じていますが、その背景には主な受診者が年配層であることがあるかもしれません。しかし今のシニア世代もデジタル化が進む中で、オンライン予約やデジタルの間診票・結果票といった利便性を求める声も増えてきています。

また、健診は法律によって実施が保障されてきたため、以前は集団健診が主流でしたが、現在は個人が健診機関を選べる時代へと変わりつつあります。今後は『選ばれる健診機関』になることがますます求められると思います。

さらに、柔軟な働き方やデジタル化による効率化も欠かせないと感じます。協会が今後も社会に貢献するためには、職員の働きやすさを見直すことが重要です。ITを活用した効率的な業務フローの構築を進め、職員一人ひとりが力を発揮できる環境を作ること、人手不足の解消にも繋げていく必要があります。

そして、協会は2026年の早春に新しい拠点へ移転し、みなとみらい地区でさらに進化することを計画しています。大きな変化には不安もあるし、手間もかかると思います。しかし、みんなで力を合わせて乗り越えていきたいと思っています。

この70年で積み上げた信頼を土台に、デジタル化や新しい働き方へのシフトを促進し、より多くの人々に選ばれる健診機関を目指して、皆で協力し合っていきたいと感じています。

業務部 | 豊田晃史 Koji Toyoda

2010年入職、渉外担当、新施設移転に伴う広報関連業務のリーダーを務める

